

令和2年度 卓越した技能者の表彰  
各部門を代表する技能者について

(目次)

第1部門 平川 康弘 (打刃物鍛造仕上工)	第11部門 飛田 幸男 (造園工等)
第2部門 増子 衛 (フライス盤工)	第12部門 向山 明生 (ステンドグラス工)
第3部門 相場 満彦 (金属検寸工)	第13部門 前田 秋夫 (木製建具製造工)
第4部門 原 稔 (金属工作機械組立工・調整工)	第14部門 畑中 和紀 (和生菓子製造工)
第5部門 杉田 邦夫 (電気配線工事作業者)	第15部門 金田 恵美子 (衣装着付師)
第6部門 加藤 達朗 (自動車部品組立工)	第16部門 黒田 廣昭 (日本料理調理人)
第7部門 高橋 千鶴子 (染織職)	第17部門 森下 明久 (家具類内張工)
第8部門 金武 節子 (婦人・子供服注文仕立職)	第18部門 柴 正義 (広告美術工)
第9部門 佐野 義光 (宮大工)	第19部門 臼井 二美男 (義肢・装具製作工)
第10部門 井上 良夫 (左官)	第20部門 下村 富喜雄 (玉掛工)

※ 職業部門、氏名 (敬称略) 及び職種を記載。

1 <sup>ひらかわ やすひろ</sup>平川 康弘 氏 (69歳) 打刃物鍛造仕上工【佐助 TEL:072-233-6812】

《名簿番号 6》

### ○堺打刃物の鍛造技術を極めた鋏鍛冶

大阪府推薦

堺打刃物の鍛造技術を極め、植木鋏・生花鋏等の打刃物の鋏を製作している。優れた技能としては、極軟鋼と鋼の手槌での鍛接である。一般的には電動ハンマーで垂直にのみ鍛造されるが、鋼の強度を高めるため、垂直だけでなく全方向から手槌で鍛造を行う。刃先から足まで一本の鉄を鍛造して製作し、仕上げの研ぎまで 100 以上の工程を一人で行えるものは全国でもほぼ皆無である。

### ○研究あるのみ

この家業の家に生まれ、幼い頃から仕事を見てきたことから自然とこの道へ。

鋏はかみ合わせが何より重要。そのかみ合わせの『調子を出す』ことが一番難しい。

そして、鋏自体の材質の向上には苦勞した。冶金学を勉強して最適な熱処理を研究し、独自の方法で硬度と粘りを向上させてきた。ものづくりは元々嫌いじゃなかった。楽しいから続けてくることができた。今でもまだまだ満足していない。これからもっと良いものを作っていきたいと考えている。

### ○作業風景写真



[鋼付け]

### ○作品写真



[植木屋鋏]

2 <sup>ましこ</sup>増子 <sup>まもる</sup>衛 氏 (56歳) フライス盤工【(株) 日立ハイテク TEL: 029-273-2111】

《名簿番号 8》

### ○ “機械加工の神髄を極める” それに挑み続ける匠

茨城県推薦

分析装置・医用機器・電子顕微鏡・半導体検査装置等、多様な製品の機械加工に長年従事し、加工法の立案と切削工具や治工具を考案・製作する技能を有している。その技能を活かして、高精度部品や難切削材部品の最適加工法の考案に取り組み、NC加工実現や精度の安定化、加工時間短縮に貢献した。

また、社内の後進育成の他、技能検定委員及びものづくりマイスターとして地域の技能教育にも携わり、社内外を問わず地域の技能振興に尽力している。

### ○多種に渡る機械加工の技を磨き、後進の育成に情熱を注ぐ

入社後に参加した社内技能競技大会での優勝をきっかけに、ものづくりに対するこだわりとプライドが生まれた。

製造現場において、品質と加工コストの両立で悩むこともあったが、旋盤・フライス盤などの手動装置から、NC旋盤・マシニングセンタなどの数値制御装置まで、多種に渡る工作機械作業を経験する中で「どの世界でも“こだわり”を持たなければ至高の技や生産はできない」ことを実感した。新加工法立案や新治工具の考案・製作などの改善においても「こだわりとプライド」を持って探究し、「想像から創造へ」とものづくりを展開してきた。

また、「価値創造する人づくり」という信念を持ち、技能五輪や技能検定などを通じた後進の育成にも心血を注いでいる。

### ○作業風景写真



[ターニングセンタ作業]

### ○作品写真



[革新的形状バイトホルダ]

## ○超精密部品の検査技能と手仕上げ技能を併せ持つ技能者として

## 新潟県推薦

ATM（現金自動預払装置）及び、半導体製造装置に搭載される高精度部品の検査において、汎用測定器、三次元測定機、並びに五感を駆使した判定を行い、社内はもとより半導体製造装置メーカーから信頼を得ている。機械加工では困難な難削素材の一種のチタン合金の面仕上げにおいて、卓越した指先の感覚を駆使した手仕上げ技能を有し、同時に視覚・触覚を駆使した判定を行い、装置性能安定化、量産化に大きく貢献している。また、社内外問わず後進技能者の指導・育成に貢献し、高い技能の継承に努めている。

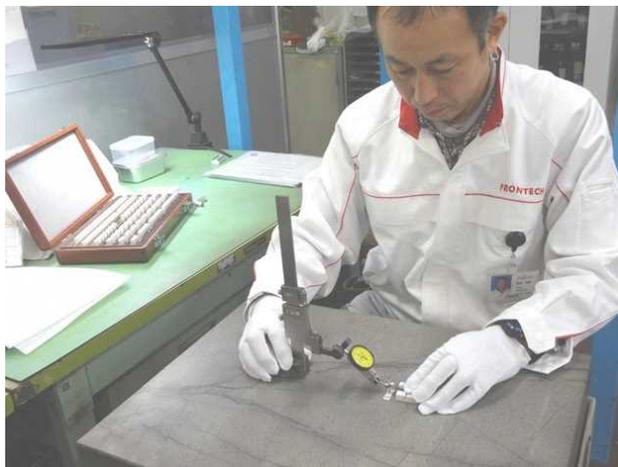
## ○お客様の立場で物事を考え、要望に迅速に対応し、品質第一で判断・行動する

入社した当時、ハードディスクサイズが5インチや8インチが主流だった時代にハードディスク部品の検査の部署に配属。基礎的なことは高校で学んできたつもりだったが、精度の高さに驚愕した。先輩の親身な指導もあり、多々難儀することがあっても上達していることに喜びを感じることができた。その後、半導体製造装置部品に携わるようになり、切削加工部品検査と、部品の密着性（表面粗さの凹凸は $0.2\mu\text{m}$ 以下）を求められる手仕上げを任されたが、当初は十分な性能を引き出すことが出来なかった。

先輩より教示いただいた「完璧よりも柔軟に」の言葉を思い出し、成功した経験より失敗した経験を振り返ることで工具等の改善点を見出し、顧客の要求する性能を満足することが出来た。「機械検査」と「仕上げ」で特級技能士を取得、「品質は世界へ通ずる認定証」の言葉を胸に、更なる技能・技術の向上に精進している。

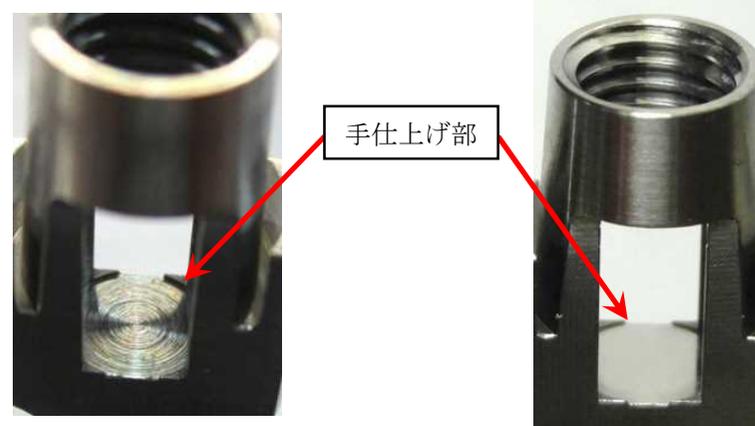
※  $1\mu\text{m}$  は  $1/1000\text{mm}$

## ○作業風景写真



[検査作業風景]

## ○作品写真



左：手仕上げ（磨き）前  
ワイヤーボンディング装置用ホーン

右：手仕上げ（磨き）後

4 **はら みのる 稔 氏** (68歳) 金属工作機械組立工・調整工【ヤマザキマザック株式会社 TEL:0587-95-1131】 《名簿番号 24》

○卓越した技能で主軸部のスピンドルカートリッジの重量バランスを調整、振動防止により工作機械の高品質化を実現 **愛知県推薦**

金属工作機械の組立業務に長年従事し、重要精密ユニットである主軸部分の組立に卓越した技能を有している。特にスピンドルカートリッジの振動を防止するための重量バランス取りにおいて、アンバランス量許容値 0.5 g 以下のところ、0.1 g 以下にしてバランスを取ることができ、工作機械の高品質化に貢献した。また、技能訓練講師として社員の技能向上に努めると共に、高校生にも実技指導を行い、後継技能者の育成に尽力している。

○「高精度な機械をお客様に届ける」その一心で

入社後、組立部門に配属。汎用旋盤の組立から始まり、主軸ユニットの組立に至るまでの約 40 年間で組立一筋で携わってきた。

さまざまなものづくりの根幹を担う工作機械は、精度が命である。その工作機械の心臓部分である主軸ユニットの品質向上に、長年向き合ってきた。主軸ユニットにおいて発生する回転領域毎の振動を、振動計を用いて丹念に要因を探り出すことで解決してきた。また、組立精度が厳しく要求される中、卓越した技能で高精度な工作機械の生産に寄与してきた。

現在、これまでの数々の苦難を乗り越えてきた経験と技能を若い世代に伝承し、お客様に高精度な機械を届けるための人づくりに尽力している。

○作業風景写真



[バラシングマシンによる主軸のバランス確認作業]

○作品写真



[横型マシニングセンタ]



[機械に搭載された主軸]

5 <sup>すぎ</sup>杉 <sup>た</sup>田 <sup>くに</sup>邦夫 氏 (51歳)

電気工事【東光電気工事株式会社 TEL:03-3292-2111】

《名簿番号 38》

### ○電気工事一筋

### 団体推薦

建設物の電気設備工事として、金属電線管・ビニル電線管の曲げ加工と電線接続に卓越した技能を有している。特に駐車場・機械室やその他特殊場所の電気工事としては、電気機器配置や配管ルート等について検討し、高品質な施工を行ってきた。

現在は、自身の経験を基に電気工事士技能競技大会の選手育成や後進への指導・教育にも携わっており、社内外に多大の貢献をしている。

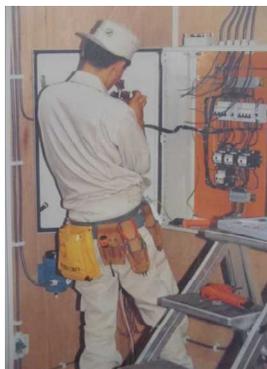
### ○お客様の心に残る品質の提供

学生の頃、電気工事会社に勤めていた大叔父から「これからはライフラインで電気は欠かせなくなる」と言われたことがきっかけとなり、電気工事の道に興味を持ち、その後電気の専門学校に進学した。

入社後にも、技能五輪1位を目標に努力し、技能五輪全国大会（電工職種）の選手として3年目に1位を獲得、世界大会でも敢闘賞の実績を残すことができた。その経験を基に、後進の技能五輪選手を指導し、多くの入賞者を輩出させた。また現場管理者としても、お客様に満足していただける品質の良い施工を提供してきた。

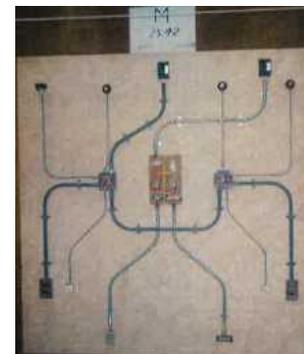
現在も若年技術者の人材育成に尽力し、自身の技能向上に精進している。

### ○作業風景写真



[第31回オランダ・アムステルダム大会国際大会挑戦の様子]

### ○作品写真



[第28回大会技能五輪全国大会 完成の作品]

6 **かとう たつろう**  
**加藤 達朗氏** (63歳) 自動車部品組立工【小島プレス工業株式会社 TEL:0565-34-6868】 《名簿番号 39》

### ○はんだ付け技術の確立を軸に、自動車部品の開発・設計から生産までの業務に精通

**愛知県推薦**

電子部品生産の基礎技術である「はんだ付け技術」を自ら確立し、電子部品生産の礎を築いた。さらに自動車部品の開発・設計から生産の業務に精通し、特に自動車部品組立技能の中の工程・設備設計技能に優れ、自社初の自動車用電子部品生産工程の開発において中心的な役割を果たし、電子部品事業を自社第3の事業の柱に成長させた。また、製品の開発・設計技能にも優れており、自社初のアンテナ製品の開発・設計に大きく貢献した。現在は社内に留まらず、国内外の仕入先部品メーカーから地域の青少年に至るまで、若手技術者の育成に貢献している。

### ○「自らチャレンジ」「幅広い視野」で良品廉価製品の提案・実現に挑む

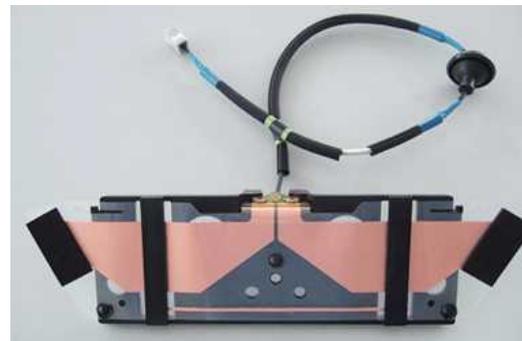
入社後、工程・設備設計をする部署に配属され、数年の実績を積み自社初の電子部品生産工程の立ち上げに携わった。当時は社内に知見者もおらずトライ&エラーを重ねて自ら学ぶ事で「はんだ付け技術」を確立。新しい事へのチャレンジ精神や、最後まで諦めない忍耐力の大切さを学んだ。また、自社初のアンテナ製品では、開発・設計・工程・設備設計の全てに関わり、「もの造り」と「製品開発・設計」両面の技能でお客様に対し、「シンプルなデジタルアンテナ」と「製品の大きさにあった超小型設備」を実現した。この事から良品廉価のもの造りは、「造り」と「設計」の両輪から生まれる事を実感した。現在も「自らチャレンジ」「幅広い視野」をモットーに仕事に挑戦し続け、技能伝承の為に人材育成に全力で取り組んでいる。

### ○作業風景写真



[手はんだ付け作業]

### ○作品写真



[シンプルなデジタルアンテナ]

7 <sup>たかはし</sup>高橋 <sup>ちずこ</sup>千鶴子氏 (96歳)

染織職【自宅兼工房 TEL:0778-34-0556】

《名簿番号 43》

## ○染織の豊富な経験と卓越した技

福井県推薦

染料となる草木採取から意匠、染色、織り上げまで全工程を一人で作業する卓越した技能を有する。数百種類の植物による豊富な草木染経験・技能に加え、高度な技能を要する「くし織」「抜き糸」等、多様な織りの技能に精通し、その作品は国内外から高い評価を得ている。

また、個展の開催や地元植物園での常設展示を通じて草木染の普及に尽力するとともに、地域で開催する染色・手織教室では講師を務めるなど後進技能者の育成に貢献している。

## ○熱中して楽しむ大切さ

幼少の頃、母の養蚕作業を見て感動した。くず繭から取り出す絹糸が穏やかでありながらきらっと光るのが印象的で、この糸を使って何かしてみたいと思い、学校の教員を退職後、60歳で染織活動を始めた。

約2年間、京都、東京、名古屋で手織の技術習得に努め、展覧会があれば全国各地へ足を運び刺激を受けていた。熱中し続け、これまで手掛けた帯は150枚、着物は100枚にもなり、1日10時間織る程であった。「いつの間にかこの年になっていた。作った作品よりも、作ろうという意欲が大切」と語る。

「染織が何より楽しく、生き生きさせてくれる」と、高齢となった現在でも展覧会に出かけ、染織を楽しんでいる。

## ○作業風景写真



[織り(平織り)]

## ○作品写真



[すくひ織・かすり織による作品「桃源郷」(日仏精選ハーモニー金賞)]

8 <sup>かねたけ</sup> <sup>せつこ</sup>  
**金武 節子氏** (76歳) 婦人・子供服注文仕立職【アトリエ節 TEL:0954-43-3460】

《名簿番号 49》

### ○注文婦人服製造における第一人者/デザイン、裁断、縫製の技能に卓越

**佐賀県推薦**

注文婦人服の制作において、顧客の個性や着用目的、季節等に合わせて、布地を身体に当てて裁断する立体裁断の手法を用い、顧客の体型とデザインの面、線を見極めながら、デザインから裁断、縫製まで一貫して制作する技能に卓越している。

また、日本の風土で培われてきた伝統の織を大切にし、九州の博多織や久留米絣、佐賀錦の素材を使った作品を海外で発表するなど服飾文化の向上に貢献し続けている。

### ○布に教えられ、糸に導かれて

父の勧めで、熊本市内の職業訓練所で洋裁の技術を取得。23歳からの6年間、洋裁店のパタンナー及びデザイナーを経て、35歳の時独立し、オートクチュール「アトリエ節」を開業。アパレル業界の大量生産の中に在っても、注文服に拘り続けてきた。着る人の体に合った、その人にとって快適に思える洋服をデザイン・制作してきた。

変えていいものと変えてはならないものを選別しながら、立体裁断による縫製を行っている。また、日本伝統の織物を大切に、着物・帯・絣等を素材として、和の素晴らしさを発表し続けた。終わりのない技術の世界、高等学校の講師を通して、若い人にもものづくりの楽しさや大切さを伝え、技術を継承し続けている。

### ○作業風景写真



[シーチングによるジャケットの立体裁断]

### ○作品写真



[ツーピース〔家紋〕2009年全日本洋裁技能コンクール内閣総理大臣賞受賞作品]

9 **さの よしみつ 氏** (87歳) 宮大工【光建業株式会社 TEL:0544-58-0244】

《名簿番号 59》

### ○生涯が勉強の連続、伝統的な建築様式を守り続けたい

**静岡県推薦**

宮大工として昭和 28 年より 67 年間、社寺建築を手掛ける中で、規矩術や木割りの技能を習得し、設計から完成まですべて自分の手で仕上げている。社寺仏閣の屋根では、反らせると同時に軒先も隅に向けて反り上がるように施工するが、隅が反ると軒先が短く見えるため、それを修正する方法を規矩術の中に取り入れて施工する工法を考案した。

現在は、長年の棟梁としての技術を伝えるべく、後進指導にも力を注いでいる。

### ○社寺仏閣の建築は 200 年以上の耐用年数を持たせる

名古屋で建築の見習い修行をしている中で、建築中だった大須観音の本殿建築作業現場を見て感動を覚え、宮大工を志す決心をした。地元に戻り社寺仏閣の建築を手掛ける企業に弟子入りし、宮大工としての技を養った。長年の修業の後、文化財に指定されている五重塔の修復を行う棟梁としてその腕を発揮した。その後独立し、宮大工として県東部および関東地区の社寺仏閣の建築を 50 年以上手掛けている。

日本の伝統建築様式を守り、200 年以上の耐用年数を持つ建築を行っている。また、建築に関わる資格（一級建築士、一級土木施工管理技士、棟梁専攻建築士等）を取得し、建築全般を束ねる棟梁として日々邁進している。

### ○作業風景写真



[曲尺を用いて原寸図を作成]

### ○作品写真



[代立寺多宝塔（静岡県富士宮市）]

10 いのうえ よしお  
井上 良夫 氏 (74歳)

左官【井上左官店 TEL:0773-48-0244】

《名簿番号 66》

### ○京都特有の土壁工法より漆喰壁、大津壁の技能で文化財の修復・復元に貢献

団体推薦

長年に亘り左官業に従事し、伝統工法を習得し研鑽を積む。経験と研究の成果と言える独自の材料配合で仕上げる漆喰壁や、漆喰を重ねて型を引く現場引きでは、細部の仕上げや色合いなど、漆喰仕上げの技能に卓越している。その高度な技術は、文化財の修復や復元工事で発揮され、文化財の維持に貢献されている。視野は広く、西洋建築様式も取り入れた施工では、石膏マーブル（ドイツの疑似大理石）の技法で、ホテルのロビーにそびえるシュトック・マルモの列柱の制作に携わり、業界の発展向上に尽力している。また、その技能は、職業訓練校の指導員として、惜しむことなく後進の技能者の育成指導に注がれた。

### ○習うは一生

文化財の復元工事では、壁用と天井飾り用の漆喰の色合わせに苦勞した。漆喰の材料は、天然の糊として黒葉銀杏草を炊いて石灰に混入する。天井飾り用の材料には、壁用の材料よりも糊を濃くする必要があり、黒葉銀杏草を多く使用するために材料が黒ずむ。天然素材に拘り、調合を調整し、糊の炊き方を変えて試作を繰り返した。最終的に湯煎で調整し、変色を抑えて復元に成功している。試作に、約1カ月を要したが、熱意の賜物と言える。習うは一生が心情。自ら技能講習会に積極参加し訓練を受ける傍ら、若年技能者への訓練参加の呼びかけや、自身が指導員としての指導にも熱が入る。

### ○作業風景写真



[こまいかき作業 古民家改修工事]

### ○作品写真



[旧 武藤山治邸・天井飾り・漆喰壁]

11 飛田 幸男 氏 (73歳)

造園工等【(株)植 幸 TEL:029-240-5008】

《名簿番号 71》

### ○技巧と感性を備えた前庭の構成

茨城県推薦

庭園の多岐多様な造園技能を研鑽し、庭園づくりにおいて自然石積みや小端石積みによる落ち着いたある門扉や土留め及びアプローチを含めた前庭工事を得意としており、特により味わいのある独特の空間の演出は他の追随を許さないほど技能に卓越している。

また、茨城県造園技能士会会長や日本庭園協会茨城県支部長として実技研修会や技能五輪などを通して茨城の造園技術レベルの向上に貢献している。

### ○伝統を重んじた知識と技能の伝承

学生半ばにして造園職人になろうと決意し、日本庭園の本場である京都市内の造園会社へ造園見習工として入社し修業を重ねた。

京都での6年弱の修業期間は住宅庭園の門から玄関までの前庭工事が主であったが、小端石積みやブロック積、そして地均しや苔貼りにも使うレンガごて(造園用には地均しなどで使用する「地ごて」がある)を自在に扱うようになり「より早く、より正確に、より綺麗に」を求めるようになった。

32歳のときに生まれ育った水戸で独立。現在も第一線で活躍し、培った技能を基に実技研修会の講師を長期に亘り努めるなどにより、造園技能者の技能向上や社会的地位向上、後継者育成に貢献し、さらに、首席技能検定委員として造園技能士の資格習得・造園イメージの向上に尽力している。

### ○作業風景写真



[枯流れ石組作業(筑波石)]※写真右側が飛田氏

### ○作品写真



[インド砂岩の小端石積み門袖と御影板石・木曾石の乱貼りアプローチ]

### ○独自の技法が生み出す立体的なステンドグラス作品

### 山梨県推薦

3～15mm程の大きさが異なるガラス製の花びらを2,000～3,000枚カットし、その中から約1,000枚を選び出し、桜の花や蕾が咲いているように立体的に組み立てる独自の技法を考案し「立体+立体=立体<sup>2</sup> (立体の二乗)」と名付ける。平面のガラスから生み出される立体的な作品が世界デザイン博で入賞するなど高く評価され、その技法は国内の多くの作品に取り入れられるなど業界の発展に貢献した。

また、制作過程や技法だけでなく、歴史や文化等を説明する講習会を開催し、ステンドグラスの魅力を広めることに尽力している。

### ○光を透過したガラスの魅力を伝えたい

子供の頃からガラス製品が好きで、ステンドグラスと出会い自宅新築の際に明り取り窓に設置したかったが、制作してくれる所はなく、ならば自分で日夜ガラス在っての生活を送る。'89年の世界デザイン博入選の「桜のランプ」をきっかけに、平板ガラスをいかに立体的に見せるか、人の真似ではなく、見た人に感動を与えられる独自の物作りを心掛けている。

「ステンドグラスなんか手芸品で工芸品とは程遠い」と言われ続け「この道より我を生かす道なし…」の思いで35年余り、小中高校の教員指導や講習会で、ガラスの文化や歴史を説明し理解してもらえるように努めている。ガラスと相対する時、如何にすれば素材のもつ美しさを引き出すことができるのかを念頭に、日々試行錯誤を重ねている。

### ○作業風景写真



[ガラスの調整]

### ○作品写真



[2曲1双山高神代さくら屏風]

13 <sup>まえだ あきお</sup>前田 秋夫 氏 (74歳) 木製建具製造工【前田建具店 TEL:0598-26-1209】

《名簿番号 88》

## ○本捻組の匠

三重県推薦

建具組子の本捻組に卓越した技能を有している。組み上げたときに、縦横一つ置きに交差しており、編み目に仕上がる事で見た目に変化をもたらす。繊細かつ綺麗に組み上げる技能は、全国でも屈指である。ものづくりとして守るところの気遣いが作品に現れているとともに、どこから見ても欠点がなく、無理して組み上げるのではなく自然に仕上がるのが前田作品の最高技術である。また、後継者育成事業にも尽力している。

## ○「建具は正直」木材にぬくもり感じ、ものづくり

昭和 60 年に三重県建具組合に加入し、翌年から県展示会に参加した。これを機に和洋に対応できる組子作品作りを考え、変化をもたらすことで一般住宅に合うように制作してきた。

愛弟子にはいつも「建具は正直であり、手を抜くと美しく仕上げる事は出来ない。自分の住まいに入れるつもりで作りなさい。」と言いつけてきた。

第 51 回全国建具展示会で経済産業大臣賞を受賞した時、師匠に報告し喜んでもらった。あと何年続けられるか分からないが、これからも建具業界に感謝を持ってお役に立てるように頑張っていきたい。

## ○作業風景写真



[組み立て作業]

## ○作品写真



[本捻組入り間仕切戸]

○茶席における茶菓子づくりに精通した和菓子職人

青森県推薦

和菓子製造技能を競う全国大会で優秀な成績を修めた卓越した技能に加え、自ら長年茶道に携わり習得した知識や経験をもとに、茶会のイメージや茶道具の取り合わせ等、茶席の諸条件に合わせた茶菓子を提案し製造する技能は、自らが茶人であるからこそ成し得る、特筆すべき技能である。

また、県産食材を用いた新商品開発にも精力的に取り組んでいるほか、技能検定委員や全技連マイスターとして後進育成及び技能振興にも貢献している。

○ものづくりの楽しさを伝える伝道師

実家が営む菓子店で、菓子づくりに励む父親の姿を見て育つ。高校卒業後、東京の茶菓子専門店で修業に入り、店番からのスタートとなった。「津軽弁しか話せない自分が、言葉の流暢な江戸っ子、茶人に対応しなければならなく、言葉が壁になり苦労した。」と語る。それでも菓子造りに携わる毎日楽しく、閉店後も製造現場に残り、手伝いをさせてもらいながら茶菓子の魅力と奥深さに触れた。帰省後、茶道の先生のもとに入門し、茶道の修行も重ね、茶名「宗紀」を拝受、以来、「茶会における茶菓子の存在と役割」を常に意識して茶菓子づくりに励んでいる。近年は学校での和菓子づくり指導のほか、地元高校生とのコラボ新商品づくりなど、子供たちと一緒に取り組みながら、ものづくりの楽しさを伝えている。

○作業風景写真

○作品写真



[専用の三角棒を用いた和生菓子成形]



[茶席菓子(秋)]

15 <sup>かねだ えみこ</sup>  
**金田 恵美子 氏** (84歳)

衣装着付師【ビューティ カネダ TEL:03-3939-4252】

《名簿番号 106》

### ○「美しく着る、美しく着つける。」拘り抜いた着付技術の伝承

**東京都推薦**

着付帯結びの技術指導をはじめニュー帯結びの創作・発表で活躍し、日本古来の伝統的な古典着付（十二単衣や紋服など）から成人式や七五三に関する幅広い技能を有しており、着付を通じて美容業界の発展と社会的地位の向上に貢献し、多くの功績を残している。

また、美容技術団体や自らが立ち上げた着付教室での着付技術指導や人材育成など、他の技能者の模範と認められる。

### ○迅速なお支度、着ていて苦しくない美しい着物姿

着付師としての経歴は新派女優初代水谷八重子氏の舞台を見て、その着物姿の美しさに感動し、水谷八重子氏の着付師であった根津昌平氏へ弟子入りから始まった。通常の着付とは違い、芸能・舞台系の着物姿で、普通の着付よりも「小粋」な雰囲気を醸し出す。氏の着付のお支度は、通常の着付と少々違い、「補正用具」、「胸紐の締め方」などに工夫や重点を置き、「迅速なお支度、着ていて苦しくない、美しい着物姿」の作品を作り出す。

着物は古来より着続けられた伝統的な服装で日本の代表的な文化である。日本文化を衰退させないためにも若い世代へ向けて着付教室や美容専門誌で自分の習得した知識と技術を伝承し、後継者の育成に尽力している。

### ○作業風景写真



[京舞妓の着付]

### ○作品写真



[京舞妓]

## ○伝統技術を継承し、新食材と調理法の研究で新商品を開発

団体推薦

天保元年（1830年）創業の老舗料亭なだ万の最高レベルの舞台で腕を振るい、伝統技術の継承と食文化の向上に努め、業界の発展に寄与されました。“老舗はいつも新しい”とのコンセプトのもとに、新食材と調理法の研究を重ね、定番のフォアグラ茶碗蒸しなどを考案した。業界においては全技連マイスターとして匠の技や食育推進全国大会等で作品を公開し、またテレビ出演等で日本料理を国内外に普及させた功績は大きい。

## ○厳しい修業時代と偉大なる師匠との出会い

寺院住職の厳格な父に育てられたが、15歳のときに病気で他界した。血気盛んな年頃で親に対する反発もあり、今までと違う世界に進もうと高校卒業と同時に家を出て、京都の調理師学校卒業後迷わず日本料理の道に進んだ。当時は戦前、戦後の古い料理人が多く最初についた親方はとても厳しく住み込みで朝から夜中まで働いた。その後、老舗料亭なだ万に入社出来、料理の世界にも馴染み仕事も徐々に出来るようになった頃、有名な親方の熊野保師匠のもとで修業することになった。そこで得たものは今までやってきた事とはまるで違う世界で、料理の奥深さを見せつけられ、その後の仕事の原点となり、これからも生涯料理人として精進し続けていく。

## ○作業風景写真



[刺身庖丁を使い魚の種類に応じて手際よく切る（引く）]

## ○作品写真



[「職業訓練校作品展 ‘17 匠の技展」 出展作品より 造りの盛込み]

17 <sup>もりした</sup> <sup>あきひさ</sup>  
**森下 明久 氏** (56 歳)

家具類内張工【有限会社モリス工芸社 TEL:06-6251-3764】

《名簿番号 125》

### ○伝統的いす張り技能を伝承すると共に応用技能で高い評価を得る

**大阪府推薦**

伝統的いす張り技能を必要とする 1 級技能検定実技試験において主任技能検定委員を務め、日本独自の伝統的バネ吊り藁土手工法で明治から昭和中期に多く製作された椅子を修理する技能を有している。また、伝統的手縫い仕上げ技能と近代的なミシン縫製技能を組み合わせ応用して製作された作品はコンテストで 1 位に入賞するなど高い評価を得ている。

### ○いす張り技能の素晴らしさと楽しさを多くの人に伝えたい

祖父が創業し、3 代目として家業を継ぐべく他社で椅子張工として修行していたが平成 3 年に父が早くして他界した為に急遽、家業を継いだが足りない経験を同業者組合に入っていたおかげで大阪だけでなく全国の優れた先人技能者の方々と知り合い、多くの知識・技能を学ばせて頂き、現在に至る。この多くのご縁を大切に後進に受け継ぐために平成 27 年に同志の仲間達と大阪椅子張技能士会を発足させ初代会長として尽力している。

また、地球環境エコ事業啓発施設「ゆめほたる」で、長年使用した愛着のある椅子を一般消費者の方にも楽しく自分で直せるように氏の持てるいす張り技能を惜しげもなくレクチャーして大切に再利用してもらうリユース事業のいす張り技能の講師として貢献している。

### ○作業風景写真



[ミシン縫製作業風景]

### ○作品写真



[エコ啓発施設での「椅子張替教室」指導風景]

## ○手書きによる文字描きの第一人者

## 茨城県推薦

屋外広告物の基本は、手書きであると考え、揮毫の素晴らしさ、平筆・丸筆を生かして、文字をデザイン化し、レイアウトすることに優れている。特に毛筆の特性を表現できる、楷書、行書、草書、隸書等に、長年の経験を活かし、独自の文字を作り上げた。また、街並みを歩きながら、都市景観に配慮しながらも、芸術的表現を駆使し、都市づくりの中に、楽しさ、美しさも兼ね備えた、屋外広告物の大切さを実感した。文字と融合できるイラストを描く事により、心に安らぎと潤いを与えることを取り入れた。

## ○看板を通じて夢と希望をお伝えします

幼少より、絵を描くことが好きで、学校を卒業して、すぐに「広告美術工」を目指すことを、決心し、東京の看板加工会社へ入社した。「当時は、すべての製作を手書き（下地から、文字描き、イラスト書き等）でしなければならず大変でしたが、書くことが好きでしたので、苦労とは思いませんでした。」と本人は語っている。

また、「今は、コンピューターの時代ですが、温かいぬくもりのある文字や、イラストは、機械では表現できないものと思っており、未来にも通ずる」と考え、後継者の育成に力を入れていきたい」と願っている。現在も、茨城県屋外広告美術協同組合の相談役として、後進の育成、指導に尽力している。

## ○作業風景写真



[手書きによる文字描き]

## ○作品写真



[手書きイラスト入り看板]

19 <sup>うすい</sup> <sup>ふみお</sup>  
**臼井 二美男氏** (65歳) 義肢・装具製作工【(公財) 鉄道弘済会義肢装具サポートセンター TEL:03-5615-3313】 《名簿番号 140》

○義足使用者に「走る喜び」を提供するスポーツ用義足の第一人者

東京都

当人は、平成2年に走るための「スポーツ用義足」を国内で初めて製作した職人である。当時は義足で「走る」という概念が無かったが、日々の研究や海外の専門書を参考に試作品を完成させた。その後も、福祉メーカーや大学との共同研究等を進め、国内の義足部品製造技術の発展に大きく寄与してきた。また、当人は日本初の義足ユーザーコミュニティとされる切断障がい者陸上クラブである「スタートライン TOKYO」を設立させ、多数のパラリンピック選手を輩出した。当人自身もアテネパラリンピックから4大会連続で選手団メカニックとして指名され、現地サポートを行った。

○夢を持てるような義足を開発し、患者の自己実現に貢献

28歳で現在の職に就き、義肢装具士として30年以上にわたり、3,000人以上の切断障がい者の義足製作に携わってきた。長年の経験で培ってきた、熟達した技能・知識を発揮することで「夢を持てるような義足を作りたい」という熱い情熱を持ち、数多くの患者の自己実現に貢献してきた。「もう一度スカートを履きたい」という女性には、より皮膚に質感が似ている「リアルコスメチック義足」、妊娠中の女性から相談された際には、世界初の妊婦用義足である「マタニティ義足」等、当時世に無いものを生み出してきた。

○作業風景写真



「職人としての目と手」で患者の特徴を掴む

○作品写真



リアルコスメチック義足

20 しもむら ふきお  
下村 富喜雄 氏 (64歳)

玉掛工【日立造船株式会社 堺工場 TEL:072-243-6801】

《名簿番号 149》

### ○作業歴 45 年以上で玉掛作業に精通

大阪府推薦

玉掛作業に関する技能（クレーン等の吊り具を用いて行う荷掛け及び荷外し作業、また、ワイヤー等の吊り具計画、準備、移動等を含め玉掛作業という。）に45年以上従事し、その中でも100トンを超える大型構造物の吊り具の選定、計画、準備については、豊富な知識、経験から非常に優れている。現在も社内の技能伝承のスキルインストラクターとして後進の指導に邁進している。

### ○様々な経験から得た技術を後継者に繋ぎたい

学生時代から物作りに興味があり、工場見学で大型クレーンが大きな何十トンの造船の鋼構造物を吊り上げて搭載していく様子を見て、このような壮大な仕事がしたいと思い当社に就職を希望した。

入社当時は船を造ったが、世の中の流れと共に、オイル掘削機、大型発電用台船、さらに沈埋函やジャケットと変わっていき、その度に初心に戻って勉強が必要で、頭を切り変るのが大変だった。

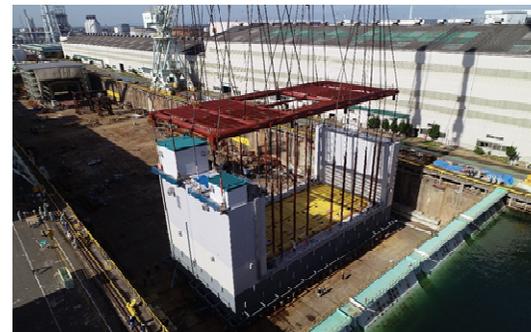
なかでも外国の海の上にエンジニアとして一人で派遣された時が大変で、何もない状態で全てをやらなければならない状況だった。帰国時には仕事に対する向き合い方が大きく変わり、それ以降の仕事で、この経験がとても役に立っている。入社以来、自分の好きな仕事を続けられた事が幸せだと思うし、今からはこのスキルを後継者に残す事が責務だと思っている。

### ○作業風景写真



[100t クレーンでの玉掛け作業風景]

### ○作品写真



[「細浦漁港向け海底設置型フラップゲート式水門」の出渠]